

平成28年度
全国学力・学習状況調査

北見市の調査結果の概要

平成28年9月
北見市教育委員会



平成28年度全国学力・学習状況調査 北見市の結果等の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査

ア 小学校調査は、国語・算数とし、中学校調査は、国語・数学とする。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

ウ 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

② 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

4 調査方式

悉皆調査（対象の全児童生徒）

5 調査期日

平成28年4月19日（火）

6 調査を実施した学校・児童生徒数

	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	1,029,582	1,000,432
北海道（公立）	40,725	41,285
北見市	914	972

7 平成28年度北見市教育委員会「全国学力・学習状況調査」の結果公表取扱要領

（平成28年7月6日 北見市教育委員会決定）

平成28年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（平成27年12月8日付文部科学省決定）に基づき、北見市教育委員会における「全国学力・学習状況調査」の結果公表の取扱いを次のとおり定める。

（1）北見市の小・中学校全体の結果概要については公表する。

教育委員会が保護者や地域住民に対して、説明責任を果たすことが重要であることから、北見市の小・中学校全体の教科等に関する調査結果について公表する。具体的な結果公表の内容としては、「小学校」「中学校」別に、次のような内容で提示する。

- ① 平均正答数や平均正答率については、公表する。
- ② 全国や全道との比較ができる図などで結果の概要について示す。
- ③ 児童生徒の学習成果などについて示す。
- ④ 北見市の学力における取組について示す。
- ⑤ その他「特徴的なこと」についてグラフや図等で示す。

（2）北見市教育委員会として、個々の学校の調査結果については公表しない。

学校別の結果公表によって、序列化や過度な競争が生じることが考えられることから、北見市教育委員会として、個々の学校の結果公表は行わない。

（3）「全国学力・学習状況調査」の結果公表取扱については、毎年度決定する。

「全国学力・学習状況調査」の結果公表の取扱に関しては、毎年度、北見市教育委員会で審議し決定する。

Ⅱ 調査結果の概要

1 調査結果の概況

(1) 小学校

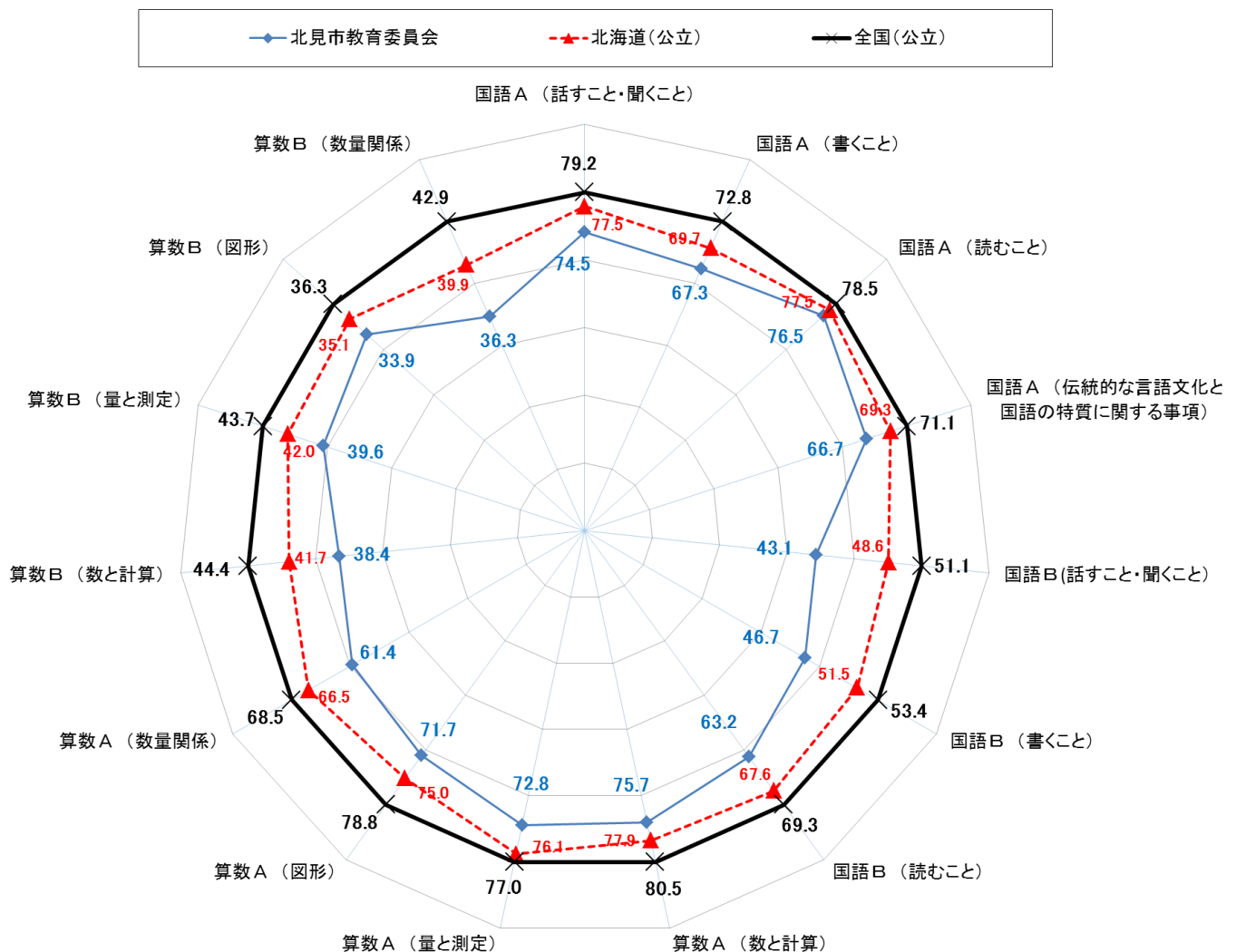
①平均正答率および平均正答数

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	全15問中		全10問中		全16問中		全13問中	
	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数
北見市	68.6%	10.3問	51.4%	5.1問	72.5%	11.6問	41.0%	5.3問
北海道	71.0%	10.7問	56.0%	5.6問	75.3%	12.0問	44.5%	5.8問
全国	72.9%	10.9問	57.8%	5.8問	77.6%	12.4問	47.2%	6.1問
全国との差	-4.3%	-0.6問	-6.4%	-0.7問	-5.1%	-0.8問	-6.2%	-0.8問

※平均正答率＝全正答数÷全問題数×100【例(北見市)：国語A 9399問÷13695問×100】

※平均正答数＝正答率×問題数÷100【例(北見市)：国語A 68.6%×15問÷100】

②全教科の領域別正答率グラフ



③各教科の課題等

【国語】

- ◎「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がある。話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて自分の考えを書く力を育成することが大切である。

(多くの児童ができている内容)

- ◇漢字を正しく読むこと。
- ◇目的に応じて、図表を関係付けて読むこと。

(課題が見られる内容)

- ◆話し手の意図を捉えながら聞くこと。
- ◆目的や意図に応じて、表などを基にして、自分の考えを書くこと。
- ◆書き手の表現の仕方をよりよくするために工夫すること。

【算数】

- ◎数量や図形についての技能・知識・理解について課題が残る。特に、「図形」と「数量関係」に関しては、知識・理解の定着を図ることが大切である。

(多くの児童ができている内容)

- ◇繰り下がりのある減法の計算をすること。
- ◇二つの数の大小を表す不等号を書くこと。

(課題が見られる内容)

- ◆直方体の面と面の位置関係を理解すること。
- ◆割合の意味について理解すること。
- ◆問題文から乗法や除法の式の意味を解釈すること。

(2) 中学校

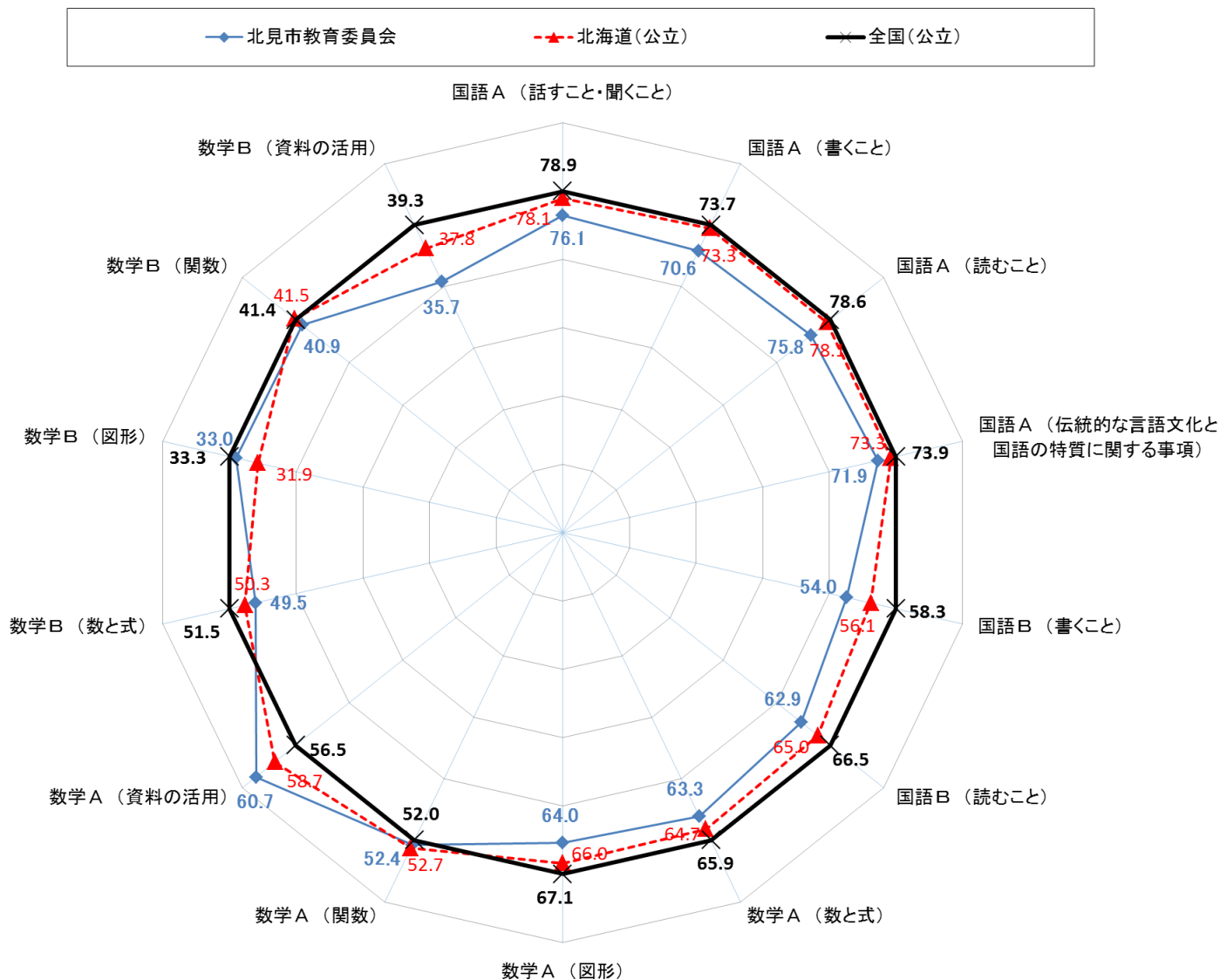
①全教科正答率および正答数

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	全33問中		全9問中		全36問中		全15問中	
	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数
北見市	73.2%	24.2問	62.9%	5.7問	60.8%	21.9問	42.6%	6.4問
北海道	75.1%	24.8問	65.0%	5.8問	61.8%	22.2問	43.3%	6.5問
全国	75.6%	25.0問	66.5%	6.0問	62.2%	22.4問	44.1%	6.6問
全国との差	-2.4%	-0.8問	-3.6%	-0.3問	-1.4%	-0.5問	-1.5%	-0.2問

※平均正答率＝全正答数÷全問題数×100【例(北見市)：国語A 23477問÷32076問×100】

※平均正答数＝正答率×問題数÷100【例(北見市)：国語A 73.2%×33問÷100】

②全教科の領域別正答率グラフ



③各教科の課題等

【国語】

◎「書くこと」「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。本や文章から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く力をつけることが大切である。

(多くの生徒ができている内容)

- ◇話の展開を読み取り、自分の考えと比較して考えること。
- ◇互いの発言を検討して、自分の考えを広げること。
- ◇辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉えること。

(課題が見られる内容)

- ◆目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと。
- ◆伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと。
- ◆文章の構成や表現の仕方について、根拠を持って自分の考えを書くこと。

【数学】

◎「資料の活用」「図形」に課題が見られた。数学的な見方や考え方、数量や図形について知識・理解の定着を図ることが大切である。

(多くの生徒ができている内容)

- ◇数量関係を捉えて比例式をつくったり、反比例のグラフを式で表すこと。
- ◇1次関数について変化の割合を理解していること。
- ◇資料から数値を読み取ったり、筋道を立てて考え、証明すること。

(課題が見られる内容)

- ◆数学的な表現を用いて、適切に説明すること。
- ◆資料の傾向を的確に捉えて、説明すること。
- ◆条件に応じて確率を求めること。

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果概要

1 児童生徒の学習環境・生活環境に関する調査結果（抜粋）

北見市前年比《↑：改善 ⇔：同等＋1未満～－1未満 ↓：課題残る》 ※（ ）内は全国

質 問 事 項			小学校 %	中学校 %
1	朝食を毎日食べている	H28	↑ 94.1 (95.5)	⇔ 91.1 (93.3)
		H27	92.6 (95.6)	91.2 (93.5)
2	自分には、よいところがあると思う	H28	↑ 71.7 (76.3)	↑ 67.4 (69.3)
		H27	69.8 (76.4)	65.9 (68.1)
3	友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意	H28	↓ 48.0 (51.7)	⇔ 49.3 (50.2)
		H27	49.4 (51.2)	49.2 (49.6)
4	将来の夢や目標を持っていますか	H28	⇔ 83.4 (85.3)	⇔ 72.5 (71.1)
		H27	83.3 (86.5)	72.8 (71.7)
5	テレビ・DVD等の視聴時間が1日3時間以上	H28	↑ 37.8 (32.8)	↑ 29.1 (24.1)
		H27	39.9 (36.1)	34.2 (30.5)
6	テレビゲーム（スマホ・携帯含）の時間が1日2時間以上	H28	↑ 39.5 (29.7)	⇔ 42.7 (34.9)
		H27	42.4 (30.2)	42.7 (36.3)
7	インターネット、メール等の時間が1日2時間以上	H28	↓ 14.6 (10.4)	↑ 34.3 (30.1)
		H27	13.3 (9.8)	37.3 (31.3)
8	授業時間以外の、1日当たりの勉強時間が、2時間以上	H28	↓ 13.6 (25.5)	↓ 34.8 (34.2)
		H27	15.9 (25.7)	37.5 (35.7)
9	授業時間以外の、1日当たりの勉強時間が、30分未満	H28	↓ 20.7 (11.9)	⇔ 16.5 (14.4)
		H27	19.4 (12.1)	15.6 (13.9)
10	読書は好きである	H28	⇔ 71.8 (74.6)	↑ 65.6 (69.9)
		H27	71.4 (72.8)	63.0 (67.9)

2 質問紙調査の結果の考察

学力は、児童生徒の学習環境や生活習慣と密接な関係があり、学力向上のためには、継続した家庭学習の取組等の学習習慣と基本的な生活習慣の確立が重要と考えられます。

今年度と昨年度の北見市の調査結果を比較すると、小・中学校ともに「テレビ・DVD等の視聴時間が1日3時間以上」「テレビゲームの時間が1日2時間以上」「インターネット、メール等の時間が1日2時間以上」のメディア利用時間が概ね減少し、「朝食を毎日食べている」児童が増えるなど、生活習慣の改善が見られています。また、「自分にはよいところがあると思う」、「読書は好きである」が増加し、「将来の夢や目標を持っている」生徒は高い水準を維持しています。

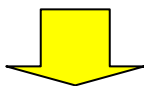
しかし、「1日当たりの勉強時間が2時間以上」の児童生徒は昨年度より減少し「1日当たりの勉強時間が30分未満」の児童が増加するなど、家庭学習への取組が課題として残りました。

今後も学校と保護者が連携を図りながら、児童生徒の家庭での基本的な生活習慣や学習習慣の形成を支援していく取組が必要であると考えられます。

Ⅳ 学力向上の取組

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて、改善の方策として、次のような取組を進めます。児童生徒の学力向上を側面から支える要素として、これらの取組を各学校で積極的に推進していきます。

- ◎授業改善に向けた教員の指導力向上の推進
- ◎学習規律の定着や落ち着いた教室環境など学習環境づくりの推進
- ◎ICTの活用など「わかる」授業の工夫・改善と適切な学習指導計画作成
- ◎家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活習慣の推進
- ◎読書活動の推進



【北見市教育委員会としての取組】

○教員の授業力の向上を目指した研修会の実施および各種事業の推進

大学や関係機関等から講師を招いて、教員を対象とした指導力向上講演会や研修会を開催し、教員の授業力の向上を図ります。また、「授業改善推進チーム活用事業」「学校力向上に関する総合実践事業」「地域連携研修」「北見市研究指定校」等の取組を推進します。

○学力向上推進委員会との連携推進

北見市学力向上推進委員会の取組の推進と充実を図り、「学習環境をつくる」「指導技術のみがく」「指導方法を工夫する」を3つのスタンダードとして、授業改善を進めるとともに、学習規律の定着、家庭学習の充実などの取組を通して、児童生徒の学力の向上を目指します。

○個に応じた指導を充実するための人的配置

教育活動支援講師を配置し、少人数指導やチームティーチング、習熟度指導など個に応じた指導の充実を図ります。

全国学力・学習状況調査は、今回で10回目となります。各学校においても、本調査の結果を分析し、現状と課題を明確にして、教育の質を高める取組を推進していきます。

未来を生きる子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むことができるように、今後とも市民の皆さまの学校教育・家庭教育へのご理解とご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成28年9月 北見市教育委員会